

会 議 録

会議の名称	令和 7 年度 第 1 回社会教育委員会議
開催日時	令和 7 年 8 月 1 日（金）午前 1 0 時～ 1 2 時
開催場所	所沢市役所 6 階 6 0 4 会議室
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	別紙のとおり
説明者の職・氏名	
議 事	（１） 令和 6 年度公民館事業報告について （２） 学校運営協議会の視察報告について （３） 地域ジュニアリーダー養成講座について （４） その他
会 議 資 料	資料 1－1：公民館利用人数の推移 資料 1－2：登録サークル数 利用目的コード一覧表 資料 1－3：事業実施状況表全体 資料 1－4：所沢市まちづくりセンター設置条例施行規則 資料 2： 令和 7 年度 学校運営協議会 状況 資料 3：地域ジュニアリーダー養成講座チラシ
担 当 部 課 名	教育長 岩間 健一、教育総務部長 池田 淳、教育総務部次長 三上 佳明、文化財保護担当参事 稲田 里織、所沢図書館担当参事 中村 まさみ 教育総務部社会教育課 課長 奥井 祥三、主査 宮岡 さやか、主任 高橋 幸大、生涯学習推進センター所長 藤巻 幸子 教育総務部社会教育課 電話 0 4（2 9 9 8）9 2 4 2

所沢市社会教育委員会議出欠一覧

令和7年8月1日（金）午前10時から 所沢市役所604会議室

選出根拠※	氏 名	備 考	出欠席
学校教育 関係者	よしかわ えいいち 吉川 英一	所沢市立小中学校校長会 (向陽中学校校長)	○
学校教育 関係者	いしみね ゆうだい 石嶺 雄大	所沢市幼児教育振興協議会 (美原幼稚園 園長)	×
社会教育 関係者	かとう いちお 加藤 市男	所沢市公民館運営審議会 民生・児童委員	○
社会教育 関係者	なんば ひろゆき 難波 裕之	所沢こどもルネサンス実行委員会	○
社会教育 関係者	たけうち さとこ 竹内 聡子	所沢市スカウト協議会 (ガールスカウト埼玉県第36団)	○
社会教育・ 家庭教育 関係者	はりゆう きよみ 針生 清美	柳瀬小学校図書ボランティア代表、柳瀬公民館 保育スタッフ、柳瀬荘黄林閣(国重要文化財)管理 人	○
社会教育 関係者	おざわ さだやす 小沢 貞泰	(元)北秋津小学校区 心豊かな子どもを育てる学 校と地域づくり連絡会議 北秋津ネット 議長	○
社会教育 関係者	こまつ ふみこ 小松 扶美子	所沢市連合婦人会 会長	○
社会教育・ 家庭教育 関係者	やまむら あきこ 山村 顕子	所沢市PTA連合会 会長	×
社会教育・ 家庭教育 関係者	こばやし ひでこ 小林 ヒデ子	民生・児童委員 人権擁護委員	○
社会教育 関係者	すどう とくこ 須藤 とく子	元市内小学校長	○
学識経験者	せき ゆい こ 関 維子	秋草学園短期大学 准教授	○
学識経験者	おおぎはら あつし 扇原 淳	早稲田大学人間科学学術院 教授	○
学識経験者	せき なおき 関 直規	東洋大学文学部 教育学科教授	○

※選出根拠＝所沢市社会教育委員条例第2条

令和7年7月9日現在

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
教育長	【1 開会】 【2 あいさつ】 《教育長・議長があいさつを行った後、議長の進行により協議に入った。》 4月1日より教育長に就任した。昨年度までの会議では、公民館の管理運営を市長部局に移管することについて、今後の公民館事業のあり方や、あるいは教育委員会の関わり方など多角的に協議を重ねてこられたと伺っている。本年度4月からは、市長が管理運営する特定公民館として順調な滑り出しがなされているようであり、教育委員会としては、引き続き社会教育を推進する立場で、公民館事業に関わっていく。
議長	前回1月末の社会教育委員会議から半年経過した。前回のあいさつでそれぞれの学校の校歌をよく聞いてほしいと話をした。校歌には、「ところざわ」ではなくて「ところさわ」と濁らない歌詞があるようであり、校歌にはいろいろと秘められた不思議があると感じている。本日も大所高所から活発なご意見をいただきたい。 《事務局より、平塚俊夫委員が社会教育委員を退任し、教育委員に就任したことの報告をした。》 《議事に入る前に、「会議録は、要約方式とし発言者の名前は記載せずに委員と表記すること」を確認した。》 ※傍聴者1名
議長	【3 議事】 （1）令和6年度公民館事業報告について 事務局より説明をお願いしたい。
社会教育課	資料1-1は令和2年度から5年分の利用人数を記載している。令和6年度は各館の合計が628,963人で、令和2年度から6年度にかけては徐々に人数が増えているが、令和2年度から数年間はコロナ禍の影響があった。 資料1-2は、各館の公民館登録サークル数を記載している。令和6年度

地域づくり推進課	は、各館合計で1, 380のサークルが登録をしている。 資料1－3は、各館の公民館事業の実施状況を記載している。各館の事業総数は365件で、うち市民等と協働で企画・実施した事業数が228件となっている。各館の事業参加者総数は78, 786人となっており、1館あたりの平均は約6, 500人となっている。 《以下、公民館3館の事業を説明。》 1 中央公民館 「保育士たまごと一緒にあそぼう」（秋草学園短期大学との連携事業） 「親子手打ちうどん講座」（社会教育委員が講師の食育講座） 2 富岡公民館 「富岡シニアスマホ学園」（学生や関係機関と連携したデジタルデバインド対策事業） 「とみおかミステリー」（館内を利用した常設型の謎解きイベント） 3 三ヶ島公民館 「元気大学」（受講者が主体的に運営に関わる事業） 「夏休みの宿題をやっつけよう大作戦」（小中学生対象の学習支援事業） 「所沢市まちづくりセンター設置条例」と「所沢市まちづくりセンター設置条例施行規則」が本年4月1日に施行された。施行規則については、様々なご意見をいただき、案の時点から変更があったので説明する。 主な変更点の1つ目は、第5条に「特定公民館の運営」の規定を置いたことである。教育委員会からの「特定公民館を明記してほしい」「教育委員会との連携について規定してほしい」といった意見を受け、運営についてまとめた条文である。第1項は教育委員会との連携、第2項は資格を有する職員の配置について規定している。有資格者の配置については、公民館運営審議会から意見をいただいていた。他の例規との整合性から資格名を明記するには至らなかったが、有資格者の配置と役割を規定したものである。 もう1点の変更点は、第17条である。これは条例第7条に関して、誤解や拡大解釈が進まないように「使用の制限の基準」として設けた。この表記は、1月30日の定例教育委員会議で検討中の規則案を提示して説明を行った際、「公民館が主体となる政治的、宗教的活動が禁じられていることが拡大解釈されていないか」、「そうした市民の不安を払しょくできていない」といった指摘を頂いたことを踏まえて、より丁寧な具体的な記述となるようにした。この内容については、それまでの公民館においてすでに運用されていたものを、明記することで、これまでと運用が変わらないようにした。4月1日より条例及び施行規則を施行し、現在に至るまで各まちづくりセンターからは混乱が生じたというような報告は無く、スムーズに移行できたので
----------	---

	はと考えている。 教育委員会との連携についても、社会教育課と職員研修を共催するなど、連携した人材育成に努めており、6月24日にはセンター長を含む新任担当職員を対象とした研修を開催し、次回の研修についても協力して検討を進めている。また、公民館運営審議会の事務も市長部局である地域づくり推進課に移ったが、7月から始まった新たな任期の委員のうち1名を教育委員会からの推薦として、社会教育課長に委員として加わってもらった。より良い公民館活動の推進のために公民館事業について審議する公民館運営審議会の委員として教育委員会から参加いただくことで、教育委員会の意見がより明確に伝わりやすくなると考えている。また、本日、社会教育委員会議において、このように市長部局から説明・報告の機会をいただけたことも、連携のひとつといえると考えている。人材育成、教育委員会との連携、これらを通して、今後一層公民館事業が充実した運営となるように努めていきたいと考えている。
議長	規則第5条第2項にセンターには公民館事業の専門的技術的な指導および助言が可能な資格を有する職員を配置することができると記載されている。先ほど資格名を入れられなかったと話があったが、これは社会教育主事のことか。また、発令はどうなっているか。
地域づくり推進課	第5条で想定しているのは社会教育士、社会教育主事のことである。社会教育主事の発令については、教育委員会と整理が必要である。社会教育士・社会教育主事の研修については、引き続き積極的に参加を促して職員の資質向上に努めていく。
委員	本校ではまちづくりセンターのセンター長に学校運営協議会の委員になっていただき、大変助かっている。学校運営協議会への支援は、まちづくりセンターのどの業務にあたるものか。
地域づくり推進課	具体的な規定ではおかれていない。教育委員会との連携、公民館運営審議会との連携に加え、引き続き地域でまちづくりセンターと学校の連携を進めていきたいと考えている。
委員	やはり学校運営協議会は、地域あって、学校あってのことと思うので、ご協力をいただけるとありがたい。
委員	まちづくりとの関係で、地域コミュニティの基盤を作る生涯学習がとても

	大事になる。その意味では従来の社会教育よりも「まちづくり」と関わる幅広い役目が期待されているんだろうとは思っている。一方で社会教育士が創設をされて、教育機関としての専門性をそこでどう発揮していくのかという視点もまた重要だと思う。資料をみると、３００以上の事業があつて、特に市民との協働で取り組んでいる事業が２００を超えている。協働については、市民が主体であるとは思いますが、見えないところでの職員の支えやアドバイスがあると思う。学校教育のように指導要領や目的、目当てがはっきりとしているわけではないが、社会教育が地域の生活との関わりの中でそれをサポートする重要な役割を果たす「まちづくり」が実現できたら、きっとその「まちづくり」は素晴らしいものだと思う。 コミュニティ・スクールとの関係では、以前公民館の視察に行ったときに、文化祭を地域と中学校から隣接する公民館で協働して行うということを伺い、素晴らしいと思った。生徒が地域と一緒に取り組むことによって刺激にもなる。できればそういう方向をさらに推し進めて、教育課程とかの中にも積極的に地域との関わりが増えてきたら、コミュニティ・スクールも一緒になって、所沢がさらに元気になると思う。 最近見た資料の中で、図書館の今年度の取り組みとして、航空資料を重点的に収集するということが書かれていた。今の時代、ＡＩとかビッグデータですぐに情報が手に入って頼りになっているが、航空資料のようなものは本当に手に入らない。地域固有の長年の歩みの中で、大事にされてきたものだと思うし、すごく可能性があると感じている。そういう資料が、人を繋げたり、若者の刺激になったり、感性を磨いたりする。色々な社会教育施設が関わりながら、公民館、まちづくりセンターがふるさと所沢の中心拠点になってほしい。地域文化がなければ「まちづくり」はできないと思うので、そういう意味では地域文化というところで社会教育との関わりの視点を持つことも大事なかなと思っている。
議長	(２) 学校運営協議会の視察報告について ６月２０日の小手指中学校区に参加された委員から様子や感想など報告いただきたい。
委員	校長、教頭が色々と情報提供をしていて、委員は情報を入れている段階で、連携は今後活かされていくという印象を受けた。会長は学校区ごとに順番でなっているようであり、どうなのだろうかとは感じた。
委員	挨拶、防災、地域行事への参加をどうするのかということを３校の運営委員が３つのグループに分かれて熟議をした。挨拶は、さわやか・あいさつ・

	元気という「S A G」の習慣が大事で、これから徹底していくことが大事ではないかということが話し合われていた。防災は、小手指中学校では自転車通学の生徒がいるので、避難時の親との連携を話し合っていた。地域行事への参加は、ふるさと上新井をどう生かしていくか、どう子どもたちに浸透させていくかということを話し合っていた。上新井小学校の運動会に小手指中学校の生徒がお手伝いに行っているという話もあった。
委員	グループに分かれての熟議で次の世代である子どもたちの育成として行事へ参加してもらって郷土愛を育んでいくという話があった。地域の高齢化もあり行事はP T Aも巻き込みながら実施していくことが大事であり、地域のつながりを作るためには何回か顔を合わせて話をすることも大事だと感じた。
議長	地域行事への参加は大事であると思う。一方で最近の夏はかなりの暑さなので、開催時期をずらしたり、内容を改めたりするという地域もある。私が以前住んでいた北秋津では、7月の最終週頃に、毎年盆踊り大会をやっていたが、盆踊りを踊れる方が高齢化になっていてなかなか伝承ができない。今年は、秋に納涼祭にするようである。地域との連携の中で学校が状況を把握していけると良いということを感じた。 続いて6月23日の向陽中学校に参加された委員から当日の様子や感想をご報告いただきたい。
委員	アンケートから見る生徒の実態を報告いただき、向陽中学校の生徒は地域の環境美化に関わる活動によく参加しているということがわかった。そのアンケート結果を踏まえて、生徒と地域を繋ぐ方法を熟議していた。校長先生のデザインにもある居心地の良い学校、安全で居場所のある学校を目指して、子どもたちをどのように地域と関わらせていくか、どの子ども主体的で不登校の子ども置いていかないような学校を作り主体的な子どもたちを育てるには地域とどう連携していくかということを学校側とも話をしていた。
委員	公民館長も参加していて、公民館との連携もできていると感じた。地域行事、環境美化ももちろんだが、顔見知りになることがつながりをつくるには大事だと思う。小さいときに参加していれば大人になった時に子どもと一緒に参加してみようという気になるのではないかとと思う。
委員	環境美化のアンケートについて、「楽しかった」「地域が綺麗になって気持ち良かった」など、子ども達の感想が素直で良かった。ボランティア活動

議長	に参加すると内申が良くなるということもあるかもしれないが、理由やきっかけはどうであれ、地域行事に参加することは良いことである。また私達のような地域住民と触れ合って顔見知りになれば、その後に地域で挨拶していくことにもつながっていくと思う。 地域リソース、地域の人材という視点を持って見学をした。47校のうち3分の2が単独校ということなので、地域リソースの取り合いが気になっていた。協議会の最後に私から向陽中学校以外でも委員を受けているかということ聞いたところ、2名が手を挙げた。1人がまちづくりセンター長で、もう1人がまちづくり協議会の会長だった。新所沢地区は向陽中、清進小、北小の3校であるが、例えば松井地区だと中学校が2校、小学校が5校あり、その全てにまちづくりセンター長やまちづくり協議会長が参加することになると大変だと思った。 また、委員から防災について説明があり、人づくりということをとて強調されていた。何かあった時にそこで地域が作られ、人材が作られて循環ができるというお話を聞き、起点は人づくりであり、それぞれの自覚ということも頭の片隅によぎった。
委員	平日の午前中に学校運営協議会があると、平日に仕事をしている方は参加できない。若い世代、現役世代に参加してほしいということであれば、遅い時間や土曜日や日曜日でないと参加したくても参加できない。開催時間を考えていただけると幅広い世代が参加できるのではないかなと思う。
議長	学校運営協議会が浸透していくと、これからは地域学校協働活動も進んでいく。この活動についても、活動時間帯、週末や夕方から夜にかけてとか、参加する方々の状況を見て、工夫していく必要も出てくると思う。 また、まちづくりセンターやまちづくり協議会など、そのような単位で地域学校協働本部や協働活動が展開されていくと良いのかなという印象を持った。
委員	私も小学校で学校運営協議会委員をしている。最初は平日に開催されていたが、参加される方が働いてる方が多いことを考慮して、次は土曜日に開催する方向になっている。委員から声を上げていくと調整してもらえるかもしれない。
委員	協議会を運営するために、学校の事務量が相当増えているのかなと思った。校長先生にも負担がかかっているのではないかな。

委員	実際に動き出してみて確かに事務量は増えたが、本校の人選では学校評議員をそのままスライドし、新しくまちづくりセンター長と保護者にも参加いただくことにしたことで、比較的スムーズに進んだ。ただ、全市内でコミュニティ・スクールをやる上で、学校だけで進めていくことは難しく、市全体で動いていただくことが大事と思う。今回の環境美化についても、学校が子どもたちをまとめるのではなくて、地域の方にとりまとめをお願いし、実際に多くの子どもたちが参加した。 うまく進んでいくとそれほど大変ではないかもしれないが、学校だけで進めるとなるとやっぱり厳しいと思う。まちづくりセンター長も含め、地域の方たちにこれからどうやって繋げていくかというのが課題であると感じている。
議長	学校だけでもダメで、地域だけでもダメで、バランスや関係作り、人材発掘ということがこれからテーマになってくるのかなということを感じた。
議長	(3) 地域ジュニアリーダー養成講座について 事務局より説明をお願いしたい。
社会教育課	所沢市子ども会育成会連絡協議会と社会教育課の共催で実施する中学生を対象とした事業である。地域活動に協力しながら、そこに参加する子どもたちのリーダー的な存在、さらに今後の地域づくりの担い手となる人材を養成することを目的としている。2月に実施した講座では、美原中学校と南陵中学校の生徒、あわせて14人が参加した。 今年度については、夏休みに3つの講座を予定している。1回目は、昨日7月31日に富岡まちづくりセンターで行い、12名が参加した。2回目は松井まちづくりセンターにて8月19日に、3回目は小手指まちづくりセンター本館で8月25日に実施する。3講座合計で60名弱の応募があった。 講座の実施後、受講した子どもたちが地域活動に主体的・積極的に参加するための情報が得られるように、各まちづくりセンターの事業や児童館、市役所関係部署の事業など地域イベント情報を、社会教育課で集約して子どもたちに情報を発信していく予定である。
委員	所沢市社会福祉協議会では夏のボランティア体験を10年くらい前からやっている。私は月1回金山食堂だれでもランチ会という高齢者や障害者、子どもを育てる保護者に食事を提供する活動をしていて、そこでの受け入れをしている。このボランティアに今年は8人募集があり、3人落選してしま

	ったが、大学生も高校生も参加している。その子たちにアンケートをしたら、「楽しかった」「知らない人と話せた」という感想や「自分から動けなかったのが残念だった」という感想もあった。 ボランティアを中学校区で進めていただけたら、高齢化社会での支えにつながるし、参加する子どもたちがボランティアを楽しんでいることはとても良いことである。
委員	地域ジュニアリーダーになった中学生とそれぞれの地域活動がどのようにつながるのか。地域ジュニアリーダーが自ら情報を得て参加するのか、行政が情報を提供するのか。
社会教育課長	地域ジュニアリーダーが情報を得る方法は大きく2つある。1つ目は、学校の掲示板に掲示することである。現在学校の掲示板に地域情報を掲示することを各中学校に依頼をしてそれぞれの学校長に了解を得ているところであり、まちづくりセンターや自治会から学校に情報が提供されることを予定している。2つ目は、所沢市ホームページでの情報提供である。社会教育課でまちづくりセンター、図書館、スポーツ関係、様々な行政関係の事業などを集約して、所沢市ホームページで情報提供する予定である。
委員	地域ジュニアリーダーになった中学生が、その後どのように地域に出ていったかを、しっかり追跡できるようにしておいた方が良いと思う。例えばライン（LINE）登録も活用し、地域ジュニアリーダーとして何回か行事に参加したらブロンズになり、次はシルバーになってゴールドになるということがあると、地域貢献することとしっかり結びついていくのではないかと。ゴールドになったら所沢市から2万円ポイントがもらえとか、お金でなくても野菜が届くとか、何か面白い取り組みと結びつけることができると、意欲的に地域貢献することにもなると思うし、どの活動にどの子が出たということもわかると事業評価にも繋がると思う。
議長	ゲーム感覚に近いものにしたほうがということかと思う。
社会教育課長	この事業の効果測定をどうしていくかというのは、検討課題だと感じている。現時点では、社会教育課で団体のように管理していくというのは難しいのかなというふうには考えている。自主的な活動を期待してはいるが、何らかの形で効果測定をする方法がないかということは認識しているので、ご意見を参考にしたい。

議長	効果測定を行うことで、中学生たちの動機付け、きっかけ作りになるとさらに広がっていくかもしれない。
委員	私の所属する所沢こどもルネサンスでは、事業ごとに中学生のボランティアを募集している。トコトコタウンという事業で、小学生で参加した子が中学生でサポーターをやり、高校生、大学生になっても続いているということもある。実行委員も高齢化していて、次の実行委員が育っていないことは課題であるが、若い人の力も借りながら進めていこうとしている。今はボランティアに協力してくれた方を一元的に管理して、事業ごとにボランティア募集の連絡をしていくことを進めているところである。それと同時に子どもたちが地域のために自分の力が出せることを実感してもらえるとうれしい。参加した学生にボランティア証明書を出すようにもしているのも、そのような目的で参加してもボランティアをする機会になればいいなと思っている。 また、今年度からはチラシの紙配布をほとんどせず、テトル（tetoru：学校・自治体・保護者のための連絡ツール）で配信をすることになった。今月実施の事業で、グーグルフォームでの参加申込時に何を見て申込をしたかを入力してもらったところ、参加者３５名全員がテトルを見て申込をしたと回答があった。紙があれば手元に置いておいて申込をしようとするが、テトルだと情報がすぐに埋まってしまいそうで、それを心配してポスターを作り学校に掲示をした。でも、テトルにここまでの効果があるとは思わず、一安心した。
委員	ほとんどの所沢の小学校は、先生方の事務負担軽減のため、テトルを使用している。私は青少年育成推進委員をやっていたときに、手紙を持って行くと学校によっては紙ベースのものは断られ、データで渡すと子どもたちに周知ができるというようなことがあった。テトルだと校長先生の判断で一斉送信をして連絡がいくので、効率が良く、どんどん切り替えていく時代なのかもしれない。 P T A 活動で学校の除草作業など保護者に手伝ってもらいたい行事があり、情報発信をＳＮＳでの発信に切り替えたら、今まで手紙を配布しても集まらなかったボランティアが結構集まったという話を先日聞いた。保護者からしてみると、リアルタイムにＳＮＳで連絡が来ると、気軽に申込できるということも聞いた。もしかすると、紙からデータでの情報発信の方が、今の時代には合っているのかもしれないと思っている。 （４）その他 事務局より２点報告し、日頃の委員の活動報告をした。

議長	(事務局より) ①第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会 ②入間地区社会教育委員研修会 (日頃の活動報告) ・所沢市立だったこともある所沢高等学校を含め、市内48の学校の沿革と地域の関係を一覧にしてみようと思い、「所沢の地域コミュニティと学校のうつりかわり」の表を作成した。 ・以前、社会教育委員会議で「自分の住むマチを良くしようと思うと、その歴史が気になるようになる」という新聞のコラムを紹介したが、これからコミュニティ・スクールが浸透していったら、学校や地域を良くしたいと思った方々が、5年後、10年後、15年後にこれを見て、何かのヒントになってくれれば、という想いを込めた。
議長	それでは以上で議事その他を終了とする。 【4 その他】 ・文化財保護課説明 ①埼玉県史跡指定100周年記念「滝の城跡」発掘調査報告・講演会 平成23年度から令和4年度まで12年間で10回の発掘調査を行い、成果をまとめた調査報告書の刊行記念とあわせて開催する。 ②第12回ところざわ星空フェスティバル 子どもからお年寄りまで星空を身近に感じる機会になるよう開催する。 ③ふるさと研究ニュース 第35号 裏面に資料調査の現場からというコーナーで、終戦1か月後に所沢市民の方が疎開先の伯母にあてた手紙を紹介している。終戦1か月後の所沢の様子がわかる資料となっている。 ④企画展「所沢の昭和100年～駆けぬけた激動の時代～」 9月30日から11月16日に生涯学習推進センター3階の文化財保護課企画展示室で開催する。 ⑤鈴木家(鈴源)の所沢飛行場と近代を語る資料 6月20日付で文化財に指定した。来年度に開催の文化財展で紹介することを考えている。 ・所沢図書館説明 ①子どもたちのおすすめ本ブックリスト「本がいっぱい」 所沢図書館では、子どもたちの読書活動の推進に向け、毎年夏休み前に、

副議長	図書館おすすめの本のブックリストを配布している。 ②図書館本館の子ども向けイベント案内「ほんのもりのトベア」 本日は、本館で実施するイベントが載っている案内をお配りした。夏休みには市内図書館本分館併せて8館で、様々なイベントや展示を実施している。 ③所沢図書館航空資料コーナー 航空史研究家の方から寄贈いただいた資料を中心に整理を進めており、秋以降の公開を予定している。 【5 閉会】 今日の議題は、特定公民館、コミュニティ・スクール、地域ジュニアリーダーと、それぞれがうまく連携できると地域づくりにつながっていくと感じた。
-----	---